

鶴ヶ島市農家意向調査 結果報告書

令和5年3月

目 次

I	調査の概要.....	1
1	目 的.....	1
2	調査の視点.....	1
3	調査の方法.....	1
4	回収結果.....	1
5	調査内容.....	2
II	調査結果.....	3
1	回答者の属性.....	3
2	現在の農業経営について.....	5
3	耕作放棄地の状況.....	9
4	これからの農業経営について.....	12
5	農業行政についての意見.....	17
III	調査票.....	20

I 調査の概要

1 目的

本調査は、鶴ヶ島市の農家の経営実態や今後の経営意向、農用地の利用に関する要望等を把握し、今後の農業振興施策・農用地の有効利用方を検討する資料として活用することを目的として実施するものである。

2 調査の視点

(1) 農家の経営状況の把握

農家形態、農業従事者の就労状況、収入作物、耕作放棄地等に着眼して、農家の経営実態を把握する。

(2) 耕作放棄地の現状の把握

耕作放棄地の有無やその面積、理由などを把握し、耕作放棄地解消に向けた展望を探る。

(3) 今後の農業経営意向の把握

経営上の問題点、農業後継者の状況、今後の経営規模についての意向を踏まえ、今後の農地の利活用についての意向を探る。

3 調査の方法

(1) 対象者

農地を 3,000 m² (3 反) 以上所有している方

(農業経営の状況に関わりなく、市内に農地を所有している方)

(2) 配布・回収方法

郵送配布・郵送回収

(3) 調査期間：令和4年10月～11月

4 回収結果

(1) 回収結果

配布総数	421 件
有効回収数	254 件
回収率	60.3%

5 調査内容

- ① 回答者の属性
 - (1) 農地のある地区
 - (2) 回答者の年齢
 - (3) 農家世帯形態
- ② 農業経営の現状
 - (1) 農業従事者の状況
 - (2) 世帯の主な収入
 - (3) 主な収入作物
 - (4) 農業経営を行う理由
- ③ 耕作放棄地の現状
 - (1) 耕作放棄地の有無
 - (2) 耕作放棄地の面積
 - (3) 耕作放棄地の理由
 - (4) 耕作放棄地の解消方策
- ④ 今後の農業経営
 - (1) 農業経営の問題点
 - (2) 農業後継者の状況
 - (3) 今後の農業経営規模の意向
 - (4) 拡大・縮小の面積
 - (5) 規模拡大の方法
 - (6) 縮小・廃農の理由
 - (7) 縮小・廃農の際の農地の取り扱い
- ⑤ 自由記入

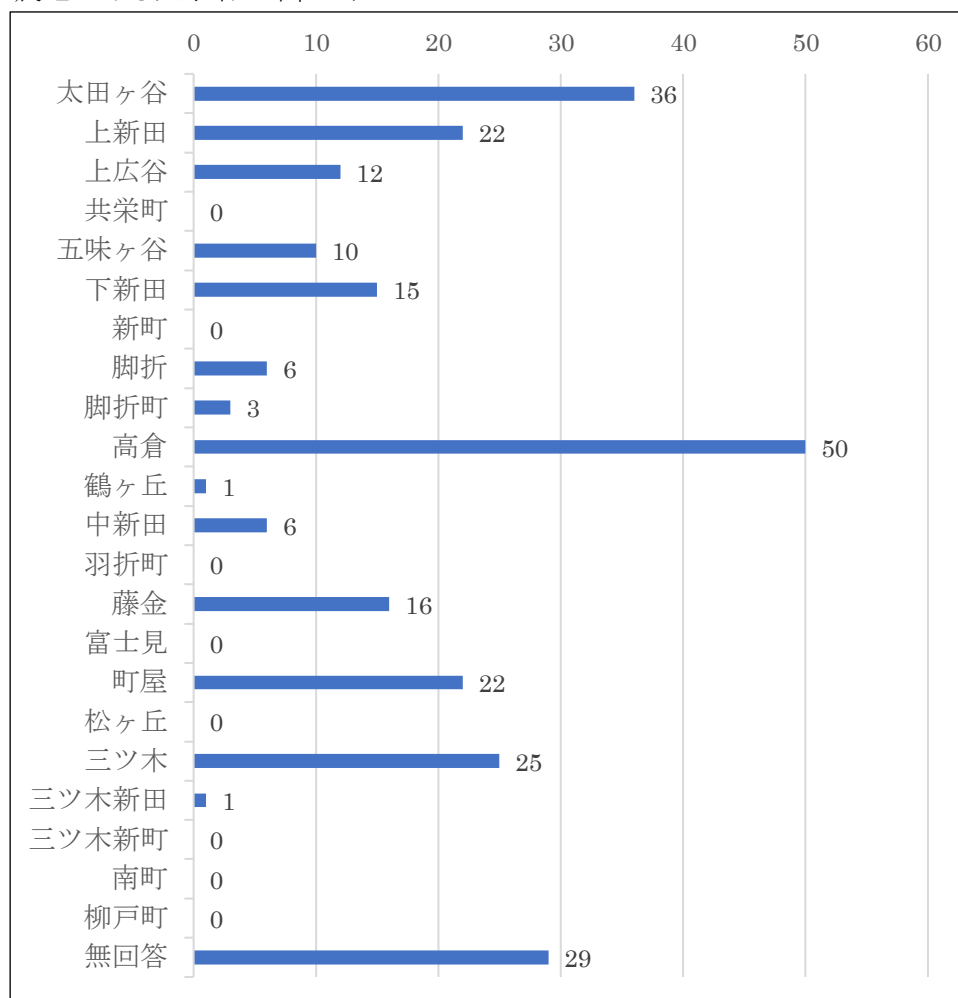
Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

(1) 農地のある地区

主に所有している農地又は主に借りて耕作している農地のある大字について尋ねた結果は以下の通りである。回答が最も多かったのが高倉地区（50戸：19.7%）である。次いで太田ヶ谷地区（36戸：14.2%）、三ツ木地区（25戸：9.8%）となっている

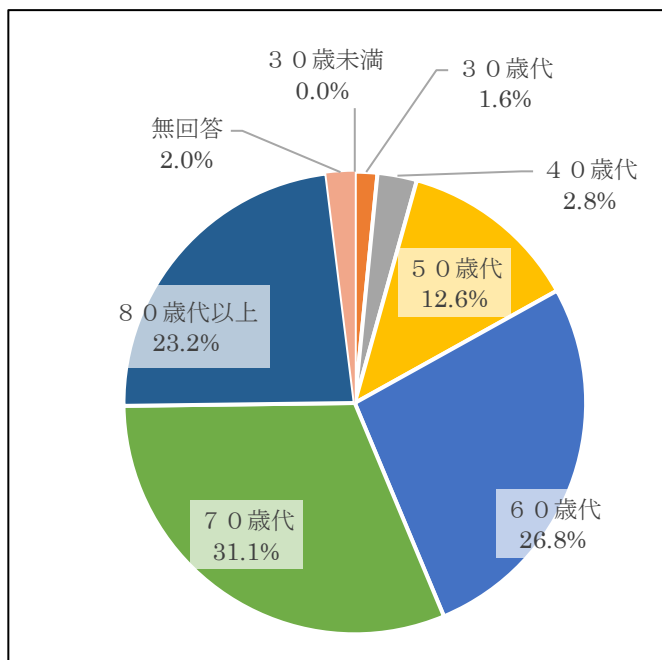
農地のある大字名 単位：戸



(2) 回答者の年齢

回答者の年齢についてみると、60歳代以上で全体の約81.1%を占め、農業経営者の高齢化が顕著である。若年層についてみると、30歳未満は0%、30歳代は1.6%、40歳代は2.8%にとどまっている。

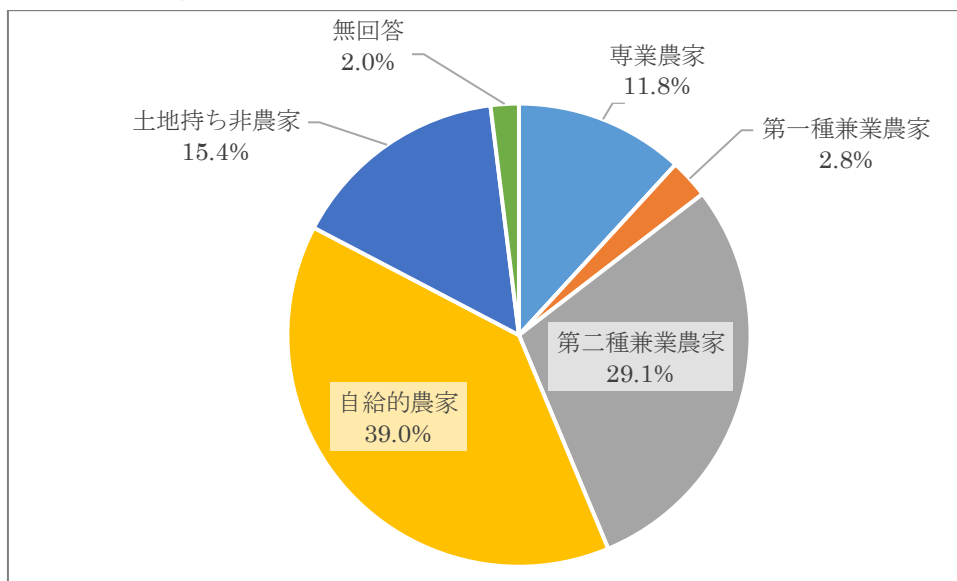
【問1】 回答者の年齢



(3) 農家形態

回答者の農家形態については専業農家・第一種・第二種兼業農家などいわゆる販売農家が合わせて43.7%とっており、半数以下にとどまっている。個別にみると自給的農家が最も多く39.0%、第二種兼業農家が29.1%、土地持ち非農家が15.4%、専業農家が11.8%、第一種兼業農家は2.8%であった。

【問2】 農家の世帯形態



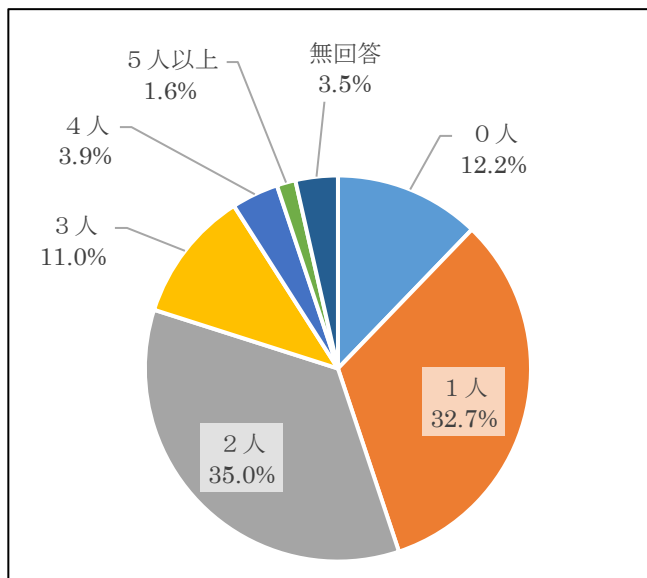
2 現在の農業経営について

(1) 農業従事者の状況

① 農業従事者数

世帯の中で1日以上自営農業に従事した人の数について聞くと、「2人」との回答が最も多く35.0%、次に「1人」が32.7%、「3人」が11%となっている。

また、「0人」との回答は12.2%であり、そのほとんどは自給的農家、土地持ち非農家からの回答であった。



【問3 (1)】農業従事者数

② 就労形態及び場所

上記①の方の就労形態と場所についての有効回答をまとめると以下のとおりである。常勤についてみると市内33.3%、市外66.7%となっており、常勤の場合は多くが市外に仕事を求めて行っていることがわかる。一方、それ以外の就労形態については、市内での就業の割合が高い。男女比では、全体として男性就農者の数が多い結果となった。

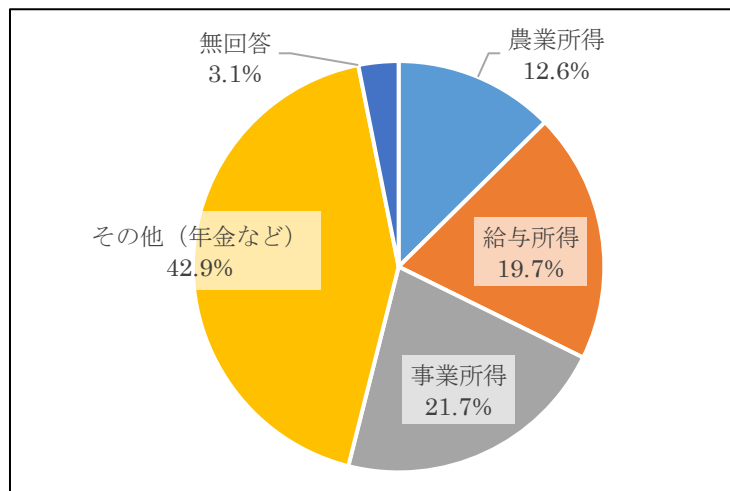
区分	男女別・就業地別						合計		
	市内			市外			男	女	計
	男	女	計	男	女	計			
自営農業のみ	91	58	149	7	6	13	98	64	162
	56.2%	35.8%	92.0%	4.3%	3.7%	8.0%	60.5%	39.5%	100.0%
自営兼業	56	38	94	1	4	5	57	42	99
	56.6%	38.4%	94.9%	1.0%	4.0%	5.1%	57.6%	42.4%	100.0%
常勤	12	6	18	28	8	36	40	14	54
	22.2%	11.1%	33.3%	51.9%	14.8%	66.7%	74.1%	25.9%	100.0%
日雇い・パート・アルバイト	10	7	17	6	5	11	16	12	28
	35.7%	25.0%	60.7%	21.4%	17.9%	39.3%	57.1%	42.9%	100.0%
その他	13	19	32	5	4	9	18	23	41
	31.7%	46.3%	78.0%	12.2%	9.8%	22.0%	43.9%	56.1%	100.0%
合計	182	128	310	47	27	74	229	155	384
	47.4%	33.3%	80.7%	12.2%	7.0%	19.3%	59.6%	40.4%	100.0%

【問3 (2)】農場従事者の就労状況 単位：上段・人 下段・% (区分内での割合)

(2) 世帯の主な収入

世帯の主な収入について、その他(年金など)が最も多く、42.9%、次いで事業所得 21.7%、農業所得給与所得が 19.7%、農業所得が 12.6%となった。農家形態別に見ると、専業農家・第一種兼業農家では 8 割以上の農家が農業所得を主な収入として挙げている。また第二種兼業農家では 36 戸 (48.6%) が事業所得を主な収入として挙げている。

【問 4】 世帯の主な収入



(3) 主な収入作物

主な収入作物第1位の結果は下表の通りである。「野菜（露地）」と答えた農家が55戸（21.7%）で最も多く、次いで「果実」が14戸（5.5%）となっている。

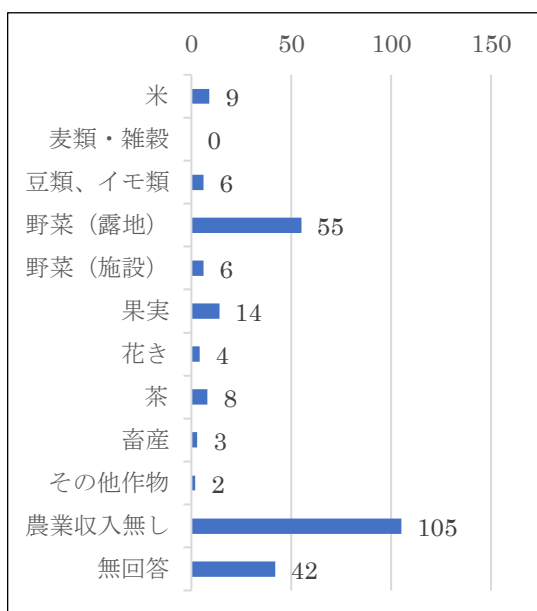
収入作物第2位では「豆類・イモ類」が27戸（10.6%）、「野菜（露地）」が13戸（5.1%）、「果実」が12戸（4.7%）となり、「野菜（露地）」、「豆・イモ類」、「果実」が鶴ヶ島市の主要な収入作物となっている。

「農業収入なし」と「無回答」は合わせて147戸（57.8%）であった。また、収入作物第2位に関しては73.6%の農家が「無回答」であった。

【問5】

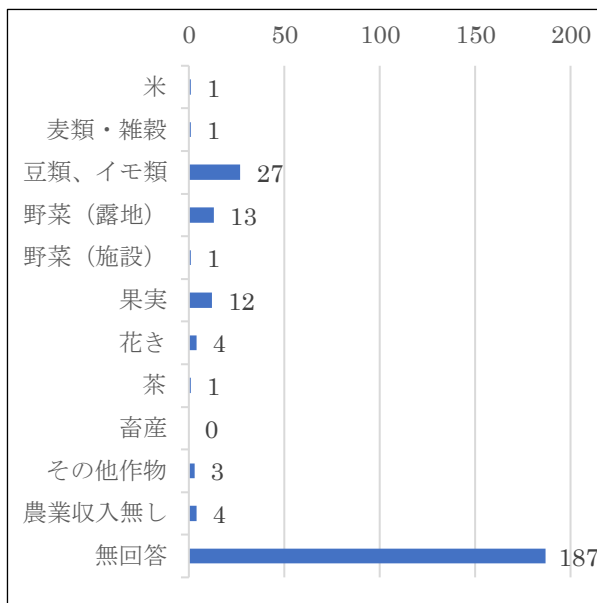
主な収入作物第1位

単位：戸



主な収入作物第2位

単位：戸



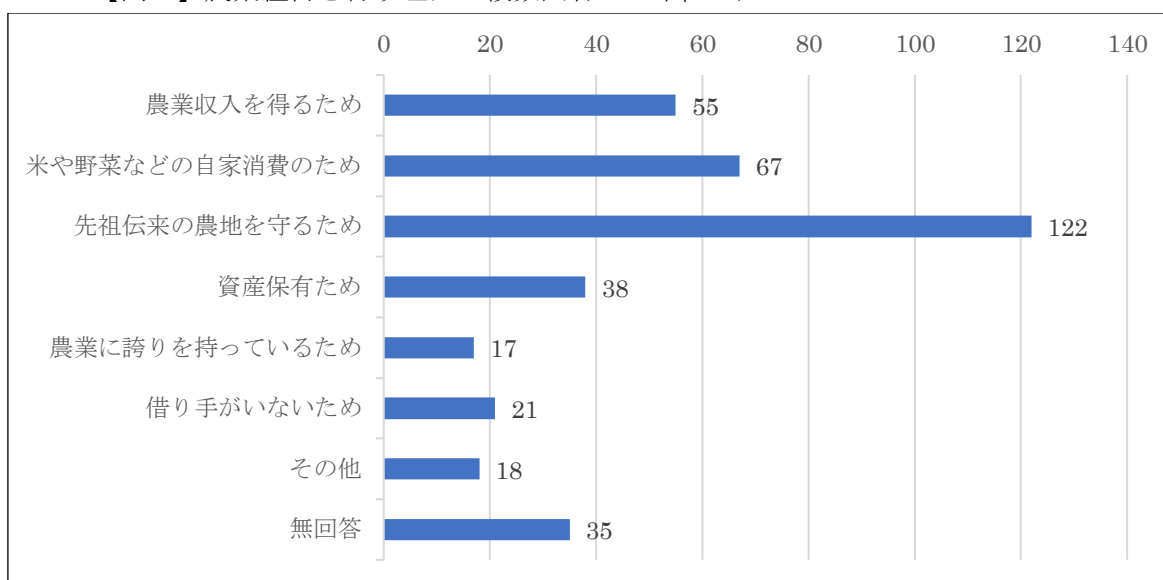
(4) 農業経営を行う理由

農業経営を行う理由について複数回答で尋ねると、「先祖伝来の農地を守る」との回答が最も多く122戸(48.0%)、次に「米や野菜の自家消費」が67戸(26.4%)と続いている。

「農業収入を得る」という理由を挙げたのは55戸(21.7%)であり、専業・第一種兼業農家からはそれぞれ25戸(83.3%)・6戸(85.7%)と高い割合で回答があったが、第二種兼業農家からは20戸(27.0%)からの回答にとどまっている。第二種兼業農家ではあっても収入以外の理由で農業を続けている農家が多いという結果である。

なお、「その他」では、“家族に頼まれてやむを得ず相続した”、“健康維持のため”などが挙げられた。

【問6】 農業経営を行う理由<複数回答> 単位：戸



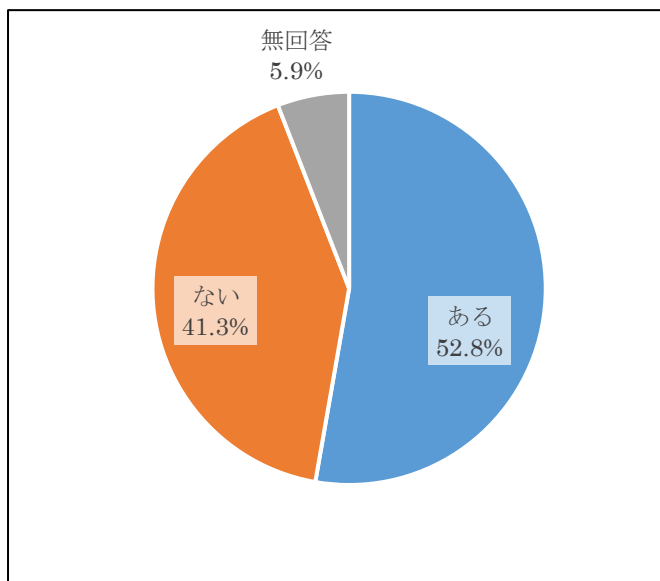
3 耕作放棄地の状況

(1) 耕作放棄地の有無

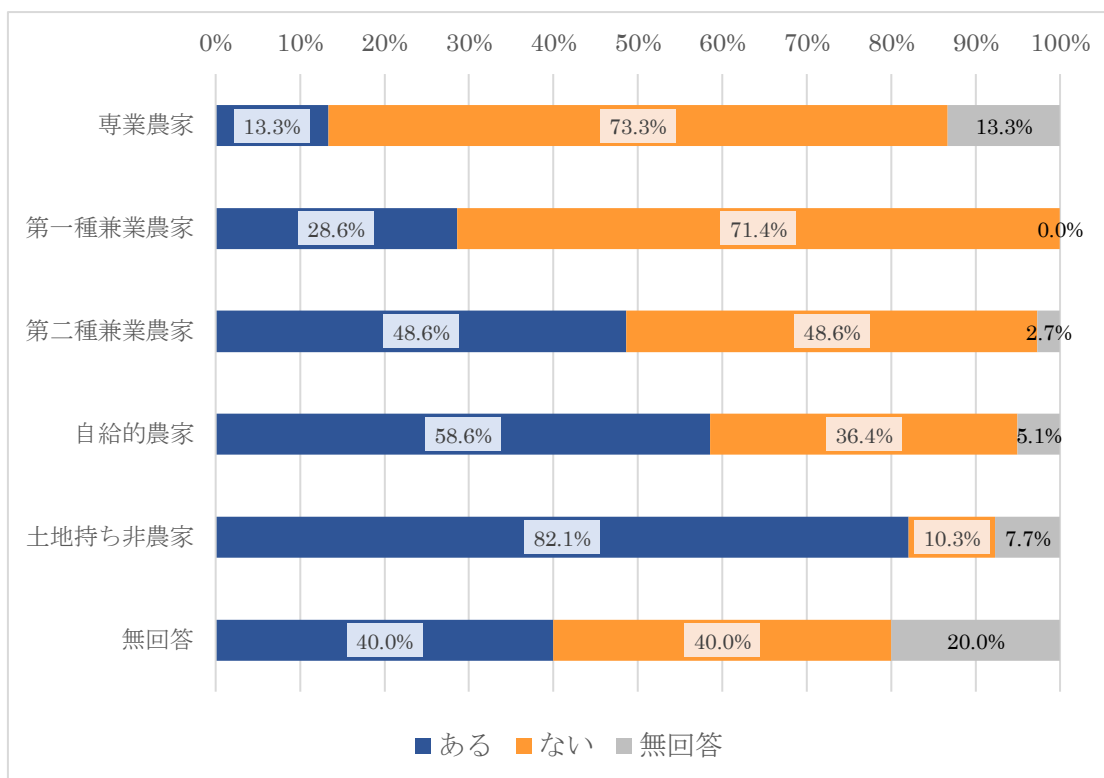
所有している農地のうち耕作放棄地の状況について尋ねたところ、52.8%の農家から耕作放棄地が「ある」との回答を得られた。

農家形態別では、土地持ち非農家の82.1%、自給的農家の58.6%、第二種兼業農家の48.6%、第一種兼業農家の28.6%、第一種兼業農家の2戸(28.6%)、専業農家の4戸(13.3%)で耕作放棄地が「ある」と回答している。

【問7】耕作放棄地の有無



【問7】農家形態別耕作放棄地の有無



(2) 耕作放棄地の面積

有効回答から得られた耕作放棄地の面積については以下の通りである。農地の種類別で見ると、耕作放棄地の多くは畑である。合計面積を農家形態別にみると、自給的農家の合計面積が最も大きく、次いで第二種兼業農家、土地持ち非農家が続いている。1戸当たりの平均面積で見ると、専業農家における耕作放棄地の面積が最も大きく、次いで自給的農家の平均面積が大きい。

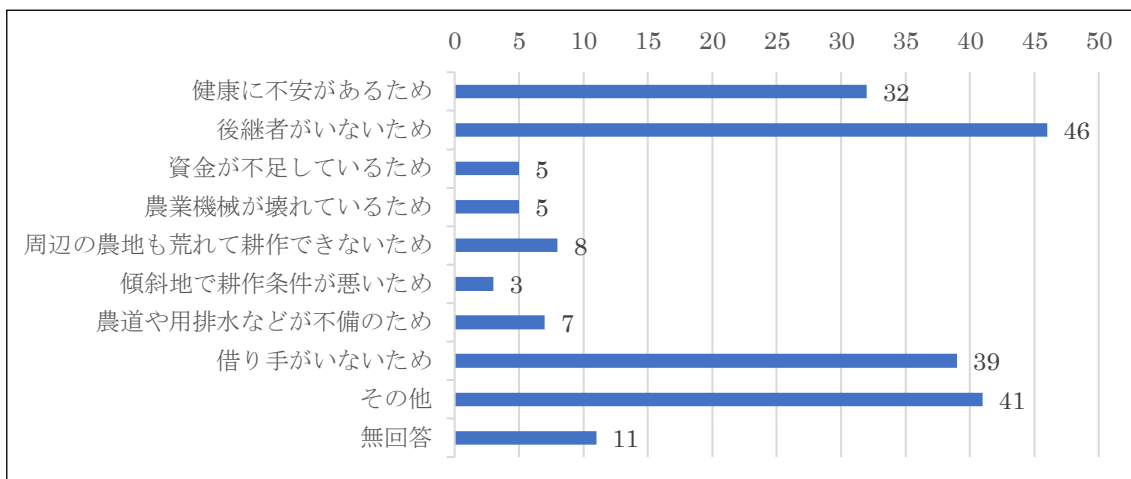
【問7-1】耕作放棄地の面積 単位：上段（戸） 中段及び下段（a）

		回答者総数	農家形態					無回答
			専業農家	第一種兼業	第二種兼業	自給的農家	土地持ち非農家	
			4	2	36	58	32	2
田	有効回答数	13.0	0.0	1.0	6.0	3.0	2.0	1.0
	平均値	29.4	0.0	24.0	16.3	54.0	24.3	50.0
	小計	382.1	0.0	24.0	97.6	162.0	48.5	50.0
畑	有効回答数	106.0	4.0	1.0	30.0	45.0	25.0	1.0
	平均値	36.7	50.3	15.0	30.7	39.8	37.2	30.0
	小計	3,887.7	201.0	15.0	919.6	1,792.0	930.1	30.0
合計	有効回答数	111.0	4.0	2.0	32.0	46.0	25.0	2.0
	平均値	38.2	50.3	19.5	31.8	41.9	39.1	40.0
	合計	4,242.8	201.0	39.0	1,017.2	1,927.0	978.6	80.0

(3) 耕作放棄地の理由

耕作放棄地があると答えた農家に、その理由について複数回答で尋ねた。最も多いもの理由は「後継者がいない」で46戸(34.3%)、次いで、「借り手がいない」(39戸・29.1%)、「健康に不安」(32戸・23.9%)が挙げられており、総じて人手不足が耕作放棄地の理由となっている。「その他」の理由としては、“会社員のため”、“時間がない”、“相続しただけ”などが挙げられていた。

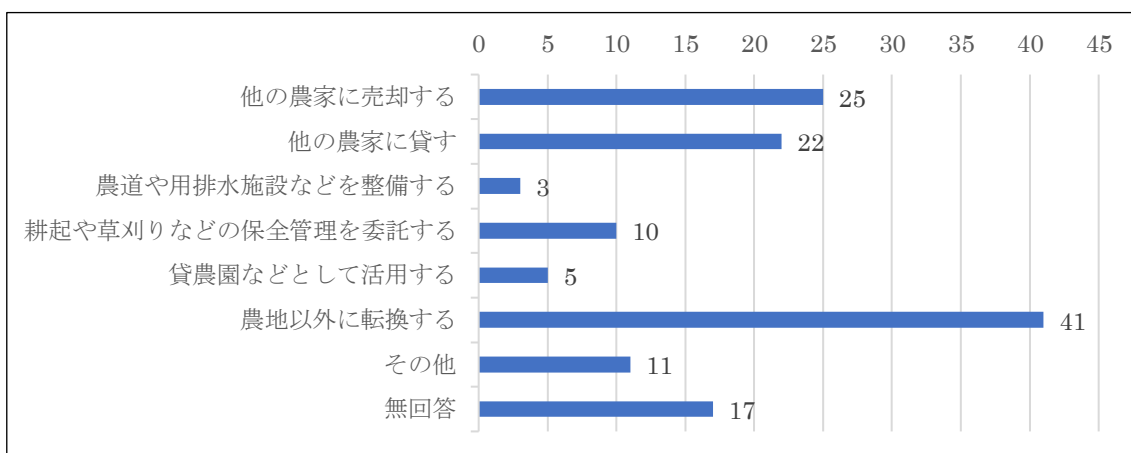
【問7-2】耕作放棄地の理由 <複数回答> 単位：戸



(4) 耕作放棄地の解消方策

耕作放棄地があると答えた農家に耕作放棄地の解消方策について尋ねたところ「農地以外に転換する」との回答が41戸(30.6%)と最も多い。次いで「売却する」が25戸(18.7%)、「貸す」が22戸(16.4%)と続いている。全体としては農地としての活用・保全を志向する回答が多い。

【問7-3】耕作放棄地の解消方策 単位：戸



4 これからの農業経営について

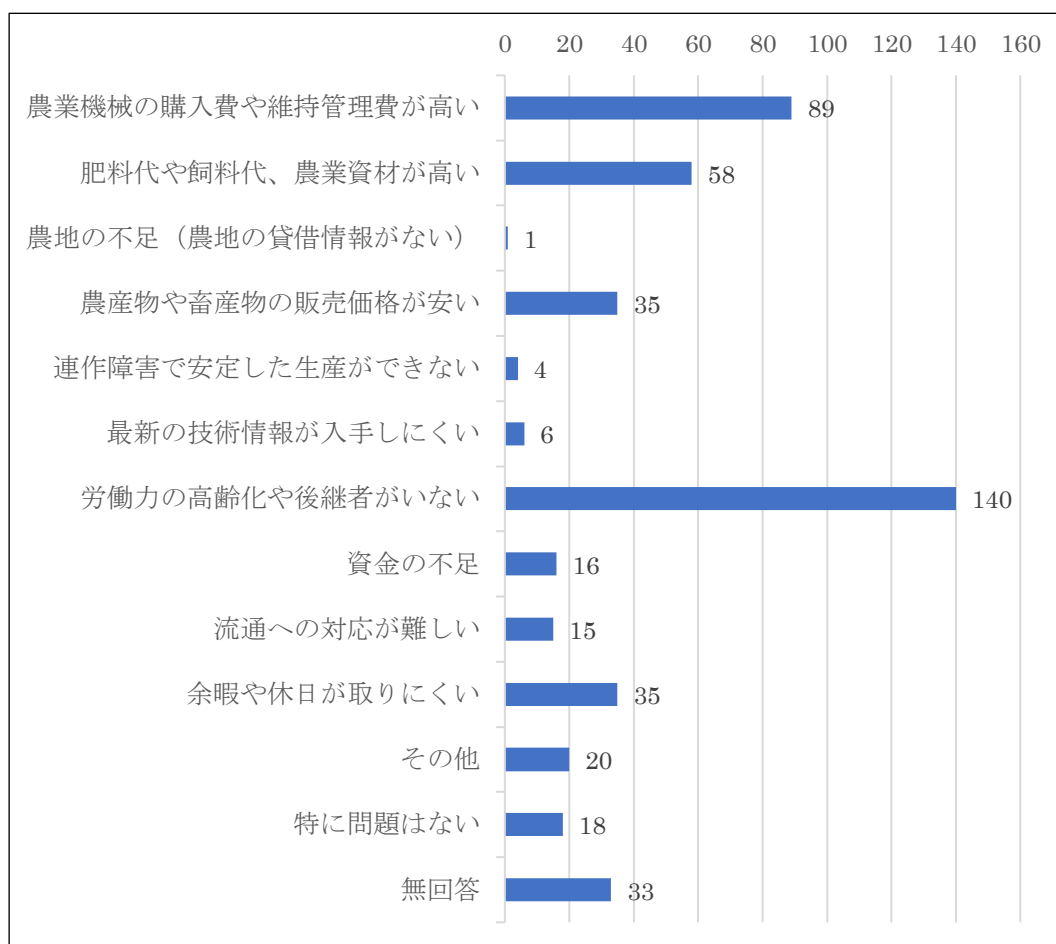
(1) 農業経営の問題点

農業経営で問題となっていることについて、3つまでの複数回答で尋ねた。

最も多いのが「労働力の高齢化や後継者がいない」で140戸(55.1%)の農家が回答している。次に「農業機械の購入費や維持管理費が高い」が89戸(35.0%)、「肥料代や飼料代、農業資材が高い」が58戸(22.8%)、「販売価格が安い」が35戸(13.8%)となっており、高齢化と機械や資材のコストの高騰が経営上の大きな問題となっている。また、「休日を取りにくい」という回答も35戸(13.8%)から挙げられている。

「その他」の回答の自由記述には、“農地に入る道がない”、“農業の経験がない”、“道による農地の分断”、“隣接地が耕作放棄”などが挙げられている。

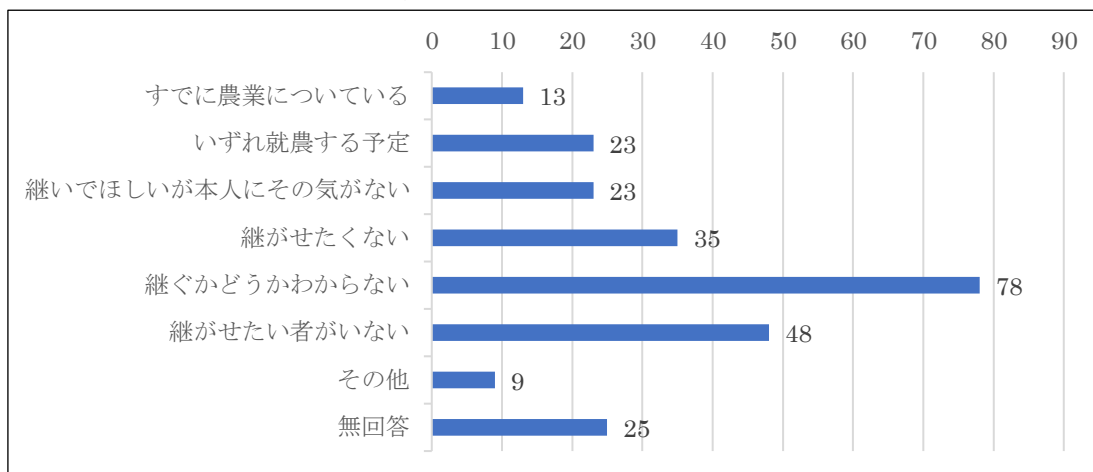
【問8】農業経営上の問題点<複数回答3つ> 単位：戸



(2) 農業後継者の状況

農業後継者の見通しについて尋ねると、「継ぐかどうかわからない」という回答が 78 戸 (30.7%) と最も多く、「継がせたい者がいない」が 48 戸 (18.9%)、「継がせたくない」が 35 戸 (13.8%) となっている。「継いでほしいが本人にはその気がない」との回答も 23 戸 (9.1%) となっている。後継者の見通しがついていない(「すでに農業についている」・「就農する予定」と回答した農家は全体で 14.2%、専業農家であっても 30%にとどまっている。

【問 9】 農業後継者の状況 単位：戸



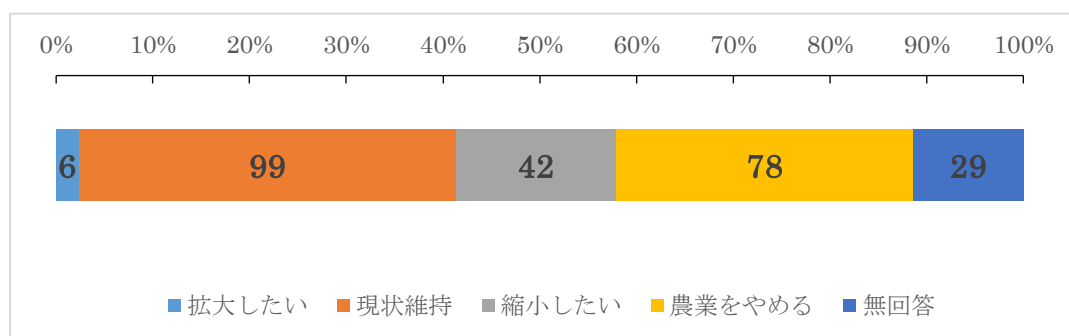
(3) 今後の農業経営規模の意向

問 10 で、5 年程度を見越した経営規模の意向について尋ねると、「規模拡大」は 6 戸 (2.4%)、「現状維持」は 99 戸 (39.0%)、「規模縮小」は 42 戸 (16.5%)、「やめる (やめている)」は 78 戸 (30.7%) であった。

拡大意向の 6 戸の内訳は、専業農家 4 戸、自給的農家 1 戸、無回答 1 戸となっている。

全体として、第二種兼業・自給的・土地持ち非農家を中心に縮小意向の農家が 47.2% と約半数を占めている状況である。

【問 10】 農業経営規模の意向 単位：%・グラフ内は戸



(4) 拡大・縮小の面積

① 規模拡大の面積

経営規模拡大の際の拡大したい面積は4戸から有効回答を得た。平均値254反(25.4ha)で、拡大総面積は1,016反(101.6ha)であった。面積が非常に大きい1戸からの回答が1,000反(100ha)と突出しているためであり、その1戸を除いた平均値は5.3反(0.53ha)であることから、拡大希望面積の合計は21.2反(2.12ha)となる。

② 規模縮小の面積

規模縮小の際の縮小したい面積は25戸から有効回答を得た。平均値は3.56反(0.356ha)で、縮小総面積は89反(8.9ha)であった。

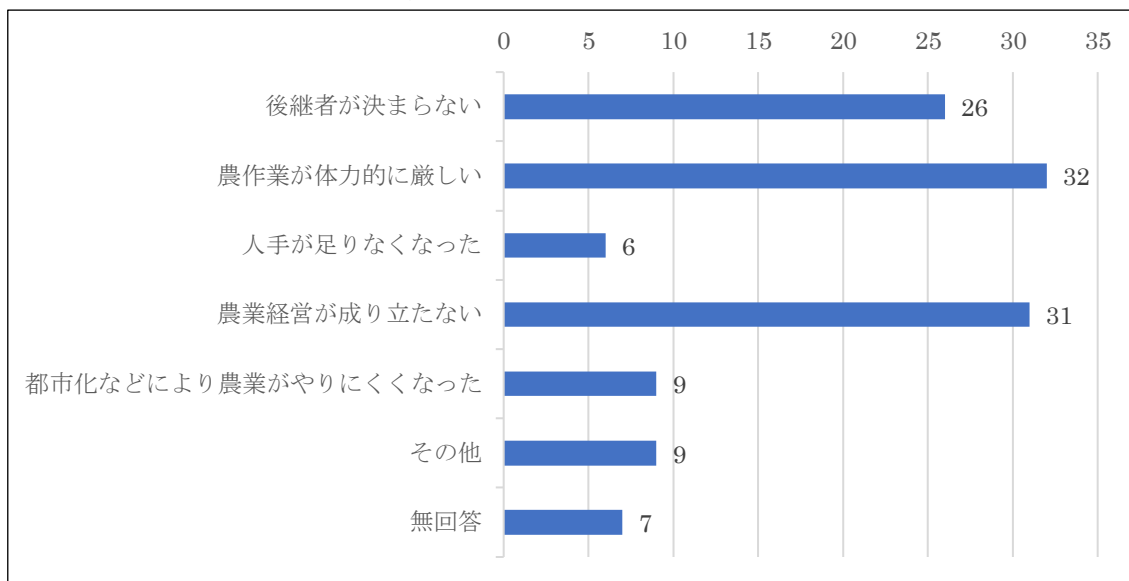
(5) 規模拡大の方法

規模拡大の際の方法については、「農地を購入する」が4戸、「農地を借りる」が2戸となっている。

(6) 縮小・廃農の理由

規模縮小・廃農の理由としては、「農作業が体力的に厳しい」が32戸(26.7%)で、次いで「農業経営が成り立たない」が31戸(25.8%)、「後継者が決まらない」が26戸(21.7%)となっており、問8での農業経営上の問題点がそのまま縮小理由に直結している状況がうかがえる。

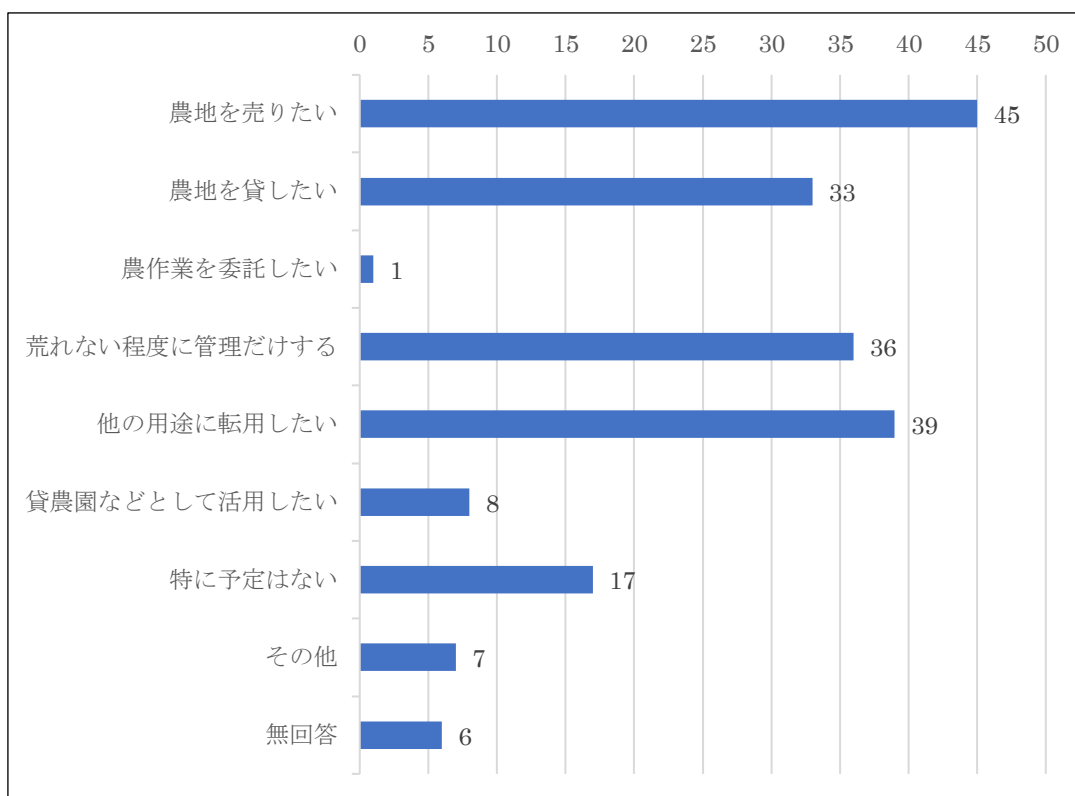
【問 12】縮小・廃農の理由 単位：戸



(7) 縮小・廃農の際の農地の取り扱い

縮小・廃農の際の所有農地の扱いについて複数回答で尋ねた。全体としては農地として活用する意向が多く、「売りたい」が45戸(37.5%)、「貸したい」33戸(27.5%)、「荒れない程度に管理」が36戸(30.0%)となっている。一方で、「他の用途に転用したい」という意見も39戸(32.5%)の農家から挙げられており、農地以外での土地の活用を求める声も高まっている。

【問13】 縮小・廃農の際の所有農地について<複数回答> 単位：戸



5 農業行政についての意見

アンケートに寄せられた自由意見をまとめ、一部を抜粋した。

【問 14】市の農業行政についてご意見

(1) 耕作放棄地対策を望む意見

高齢のため畑を維持していくことが大変です。草などの手入れだけでも広い場所なので、特に夏などは大変です。売ることもできず困っています。
町屋、上新田、中新田、作付けをしていない農地は相当数あります。10年～20年以上荒れている。
荒れている畑が改善されない。市は所有者に指導しているように見えない。
トラクターなどで耕作してるだけで、何も作付けしていない農地がたくさんある現状をぜひ認識してほしい。農地を耕作しているだけでは農業ではない。

(2) 基盤整備を望む意見

<ul style="list-style-type: none">・耕地整理を望む。・近代化するのに農道が狭すぎる。・納税猶予地を生産緑地に指定してほしい。県農業大学校卒業後継者が困っている。
耕地整理し耕作しやすい農地にする。

(3) 売却を望む意見

農地を売りたい。アンケートで売却したいと希望した。市で売れるようにしてほしい。安くてもいいので手放したい。草刈りなどで費用が掛かり、家計を圧迫している。毎日夜遅くまで仕事してるのに農業はできない。
農地は農家にしか売れず、ほしい人に売れるようにしてほしい。荒れた土地（草）など耕すだけで大変なので、どうしたらよいかわからない。
後継者がいないが近くに親族がいるので、（農地は所有していない）地続きなど、跡取りもいたら安く譲りたい。また、農業をしたい方に（実績ある方）ぜひやってほしいです
市で農地を活用していただけるなら売却したいと考えます。
現状近所の方に使ってもらっているが、正直手放したい。しかし青地のためどうにもできない。草を処理するだけでかなりのストレス。

(4) 農地を貸したい、転用したいという意見

農地として貸したい
農地を貸したいが借りてくれる人が見つからない。
高齢化が進み、後継ぎも難しい農家が増えている現実を直視して、農地の転用にもより柔軟な対応をとっていただきたい。
農地を他の用途に転用するにしても、お店が近くにないため駐車場にはならない。大道路の面していないためお店も作る業者もない事から、結局畑に使うしかない土地です。

耕作放棄となっている畑が多く、隣接している道路や畑や住宅に迷惑をかけてしまっている現状を見かけますが、農地の所有者も非農家や高齢化のため管理ができないという方も多いのではないのでしょうか。農地を畑として残すのではなく、他の用途にも転用できるように臨機応変に対応できるようにしていただけたらと思います。

(5) 農地の受け手、農法に関する意見

農業機械が高い。資材・肥料が高くなっている中、野菜の売価はさほど変わらないため、経営が難しい。小規模で農家をやるのは難しく、大規模農家が生き残っていく流れである。野菜農家へもっと補助金（肥料代、機械購入費）を増やしてほしい。また使用していない畑、使用しないような機会があれば貸す、または譲ってほしい。

私は有機農法で栽培しているが、付加価値を上乘せして販売するルートが少ない。慣行農法の野菜と差別化して販売したい。市の農業行政の方針として、有機野菜をブランド化して販売推進してほしい。安心、安全、生産者の顔が見える農業を实践したい。

5年程度は現状維持で農業を行うが、借地のため将来は地主に土地を返す予定。農業への興味・関心は高まっているので、耕作放棄地については市民農園のようなかたちで、貸農園として”有機農業”の普及のために市民が参加できるようなシステムを作ってほしいと思っています。

日本人は自国で作った米と野菜を食べるべき。
農機具メーカーや農薬・肥料メーカーや農協が儲かる仕組みではなく、農家が儲かる仕組みを作っていくといけない。
無肥料・無農薬の玄米食を普及させるべき。

農地法は農地を守って農家を守っているとは言えない。都市近郊の鶴ヶ島では農地を守るより農家を守る政策を進めてほしい。

(6) 果樹栽培への意向

将来的に果樹園にしてみたい。ブドウ、ナシなど
農家は畑や田に昔から作物を作り、人々の健康を保ちつつ農薬散布しないように努めてきました。畑の健康は人間の体も健康になることと思うのです。野菜などによって生かされていくようにするのが行政であり、農家が食べていくことが必要条件です。私は果樹園をしているので新しい品種を植えたいと思っています。

(7) 販売先に関する意見

兼業での販売方法の案内があれば確認してみたい。
農産物の直売所などの施設の充実
庭先で品物（農産物）を時々購入しています。量が多くて格安で買いやすい。市民センターで月日を決めて朝市をしています。自慢の品々が並んでいます。パンフレットなど（公募）配布していただきたいです。

(8) 農政への期待

農地の活用方法及び管理について動いてもらいたい。特に管理については大きな問題となるので、アドバイスや耕運機のレンタル、農地の耕し方のレクチャーなど、維持管理に必要な情報、対策ができるとありがたい。

鶴ヶ島は学校などで農業体験学習などが行われているのでしょうか。有名な産地は学校・行政・地域などが積極的に幼児期から農に触れる機会を設けていると思う。JAでやってる農業塾みたいなものを市内の子育て家庭を対象に施行するのも、未来志向の一策にならないか。アクティブな農業行政の応援者はかなり市内にいます。

大規模な農業経営をする企業が農業する。

Ⅲ 調査票

農家意向調査ご協力をお願い

日頃より、市政にご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。

鶴ヶ島市では、土地の農業上の有効利用と農業の近代化のための施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として昭和 48 年度に策定、その後数回の計画見直しを経て現計画（平成 19 年 3 月策定）に至っています。

現在、市では農業情勢の変化に対応するため、計画の見直しを行っております。

この調査は、市内に農地を保有している方を対象に、農地の利用状況や農業の経営実態、今後の経営意向、農地の利用に関する要望等を把握し、今後の農業振興施策・農地の有効利用方策を検討する資料として活用するために実施するものです。

なお、調査票は、本調査以外の目的には使用いたしません。

お手数をおかけしますがご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 4 年 1 0 月

1 調査の対象者

この調査は、鶴ヶ島市内に農地を所有している^{※1}方を対象としています。

※1 登記地目が「田」「畑」の土地を、合計 3,000 ㎡以上所有している方を対象としています。

2 回答方法について

(1) 設問に従って、あてはまる回答の番号に○をつけてください。質問によっては、記述していただくものもあります。

(2) ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒に入れて密封し、

令和 4 年 1 1 月 2 2 日（火）までにご返送ください。

3 個人情報について

この調査は無記名であり、個人が特定されることはありません。

4 お問い合わせ先

鶴ヶ島市市民生活部 産業振興課 049—271—1111（代）

調 査 票

この調査は、農林業センサスの対象となる方で、農地を3,000㎡(3反)以上所有している方を対象としています。世帯の中で、主に農業経営にかかわっている方に回答をお願いします。

■はじめに、主に所有している農地、又は主に借りて耕作している農地のある大字名をお答えください。

農地のある
大字名

1. 現在の農業経営について

問1 あなたの年齢をお答えください。〔1つ〕

- | | | | |
|---------|--------|----------|--------|
| 1 30歳未満 | 2 30歳代 | 3 40歳代 | 4 50歳代 |
| 5 60歳代 | 6 70歳代 | 7 80歳代以上 | |

問2 世帯の形態についてお答えください。〔1つ〕

- 1 専業農家
- 2 第一種兼業農家（農業収入が主である農家）
- 3 第二種兼業農家（農業以外の収入が主である農家）
- 4 自給的農家（耕作しているがほとんどは自家消費用である）
- 5 土地持ち非農家（農地を所有しているが自身で耕作はしていない）

問3 あなたの世帯についてお尋ねします。

（1）世帯の中で農業従事者（過去1年間に自営農業に1日でも従事した人）は何人いますか。〔1つ〕

- | | | | | | |
|------|------|------|------|------|--------|
| 1 0人 | 2 1人 | 3 2人 | 4 3人 | 5 4人 | 6 5人以上 |
|------|------|------|------|------|--------|

（2）上記（1）の方の就労形態及び就労場所はどちらですか。

当てはまる就労形態ごとに、市内・男女、市外・男女別の人数を記入してください。

就労形態	市内で就労		市外で就労	
	男	女	男	女
1 自営農業のみ	___人	___人	___人	___人
2 自営兼業	___人	___人	___人	___人
3 会社員等で恒常的に勤務（常勤）	___人	___人	___人	___人
4 日雇又は臨時雇（パート・アルバイト）	___人	___人	___人	___人
5 その他	___人	___人	___人	___人

問4 あなたの世帯の主な収入は何ですか。もっとも多いものを選んでください。〔1つ〕

1 農業所得	2 給与所得	3 事業所得	4 その他（年金等）
--------	--------	--------	------------

問5 農業経営の主な収入源となっているものは何ですか。上位2位まで解答欄に記入してください。

1 米	2 麦類・雑穀	3 豆類、いも類	4 野菜（露地）
5 野菜（施設）	6 果実	7 花き	8 茶
9 畜産 （牛・豚・鶏）	10 その他作物 （ ）		11 農業収入なし

解答欄	第1位		第2位	
-----	-----	--	-----	--

問6 現在農業経営を行っている理由をお聞かせください。〔複数回答可〕

1 農業収入を得るため	5 農業に誇りをもっているため
2 米や野菜などの自家消費のため	6 借りがいないため
3 先祖伝来の農地を守るため	7 その他
4 資産保有のため	（理由 ）

2 農地のうち、耕作放棄となっている農地についてお答え下さい。

問7 あなたの所有している農地のうち耕作放棄地（1年以上何も作付けしていない農地で、今後も作付する予定がない農地。保全管理されている農地も含みます。）となっている農地はありますか。〔1つ〕

1 ある	2 ない
------	------

問7-1 それはどれくらいの面積ですか。〔数値記入〕

〔単位：反、畝〕※1畝=1a=30坪、1反=10畝=300坪

水田	畑（果樹含む）	計
反 畝	反 畝	反 畝

問7-2 耕作放棄となっている理由をお聞かせください。〔複数回答可〕

1 健康に不安があるため	6 傾斜地で耕作条件が悪い
2 後継者がいないため	7 農道や用排水などが不備のため
3 資金が不足しているため	8 借りがいないため
4 農業機械が壊れているため	9 その他
5 周辺の農地も荒れて耕作できないため	（理由 ）

問7-3 耕作放棄を解消するにはどうすればよいとお考えですか。〔1つ〕

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 他の農家に売却する | 5 貸し農園などとして活用する |
| 2 他の農家に貸す | 6 農地以外に転換する |
| 3 農道や用排水施設などを整備する | 7 その他 |
| 4 耕起や草刈り等の保全管理を委託する | (理由) |

3 これからの農業経営について、おたずねします。

問8 あなたの農業経営で、問題になっていることは、主にどのようなことですか。〔3つ〕

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 農業機械の購入費や維持管理費が高い | 7 労働力の高齢化や後継者がいない |
| 2 肥料代や飼料代、農業資材が高い | 8 資金の不足 |
| 3 農地の不足（農地の貸借情報がない） | 9 流通への対応が難しい |
| 4 農産物や畜産物の販売価格が安い | 10 余暇や休日がとりにくい |
| 5 連作障害で安定した生産ができない | 11 その他（) |
| 6 最新の技術情報が入手しにくい | 12 特に問題はない |

問9 お子さんやお孫さんで、農業後継者（農業を継ぐ意思のある方）はおりますか。〔1つ〕

- | |
|-----------------------------|
| 1 すでに農業についている（兼業を含む） |
| 2 今は農業についていないが、いずれ就農する予定である |
| 3 農業を継いでほしいが、本人にはその気がない |
| 4 農業は継がせたくない |
| 5 農業を継ぐかどうかわからない |
| 6 農業を継がせたい者（子どもなど）がいない |
| 7 その他（) |

問10 今後の農業経営について、5年程度を見越した場合、経営規模についてどのようにしたいとお考えですか。〔1つを選び、必要に応じて面積記入〕

- | | | | |
|--------------------|----------|--------|-------|
| 1 経営規模を拡大したい | ⇒拡大したい面積 | _____反 | ⇒問11へ |
| 2 ほぼ現状を維持する | | | ⇒問14へ |
| 3 経営規模を縮小したい | ⇒縮小したい面積 | _____反 | ⇒問12へ |
| 4 農業をやめる（農業はやめている） | | | ⇒問12へ |

問 1 1 問 1 0 で「経営規模を拡大したい」と回答した方にうかがいます。経営規模を拡大する場合、どのような方法を希望しますか。〔1 つ〕

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 農地を購入して拡大したい | 3 作業受託で拡大したい |
| 2 農地を借りて拡大したい | 4 その他 () |

問 1 2 問 1 0 で、「経営規模を縮小したい」または「農業をやめる（農業はやめている）」とした理由は何ですか。〔主なもの 1 つ〕

- | |
|-------------------------|
| 1 後継者が決まらないから |
| 2 農作業が体力的に厳しいから |
| 3 人手が足りなくなったから |
| 4 農業経営が成り立たないから |
| 5 都市化などにより農業がやりにくくなったから |
| 6 その他 () |

問 1 3 経営規模の縮小、または農業をやめる場合に、所有している農地についてどのようにしようとお考えですか。〔複数回答可〕

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 農地を売りたい | 5 農地を他の用途に転用したい |
| 2 農地を貸したい | 6 貸し農園などとして活用したい |
| 3 農作業を委託したい | 7 特に予定はない |
| 4 荒れない程度に管理だけする | 8 その他 () |

問 1 4 最後に、これからの市の農業行政についてご意見がありましたら、ぜひご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて令和 4 年 1 1 月 2 2 日（火）までに郵便ポストへ投函くださるようお願いいたします。